

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

☎692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

上位昇格者

- 唄内田幾子(出雲)
 絃吉川明義(出雲)
 唄妹尾なおみ(加茂)
 絃鐘推孝行(湖陵)
 鼓伊藤芳男(宍道)
 唄勝部哲郎(宍道)
 唄安食洋子(斐川)
 絃岡田 榮(松江)
 鼓田中武雄(瑞穂)
 踊柴田洋司(境港東)
- 唄田中 巖(津ノ井)
 絃筏津義人(東伯)
 唄八田宗紀(鳥取中)
 唄田子よし子(米子)
 踊升崎琢三(広島東)
 絃升田良治(備北)
 唄名越三佐子(岡山)
 唄田村 実(関西)
 踊棚橋 保(東京)
- (総会資料名簿順)

大師範(十九名)



野坂茂男
絃の部(出雲)



山根信重
唄の部(斐川)

名人



上代安夫
唄の部(松江支部)

十一月六日に開催された安来節保存会代議員会を経て、平成十九年度の上位昇格者と表彰者が決定致しました。
 今回、上代安夫さんが、唄の部では四年ぶりの名人となられ、准名人に二名、大師範に十九名の方が昇格されました。おめでとうございます。
 来年の一月十日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

会員表彰者

(五十一名)

- 坂根富美子(本部道場)
 一字瀧秀夫(本部道場)
 神田 実(出雲)
 岡本夕カコ(石見)
 大國三枝(大田)
 吉原京子(邑智)
 野津陽一(加茂)
 佐藤早苗(神門)
 佐藤典子(湖陵)
 植田力ズエ(江津)
 岩崎智恵子(宍道)
 吉岡トヨ子(大社)
 坂本勝義(津和野)
 中本百枝(那賀)
 岩根節子(浜田中央)
 住田利夫(浜田中央)
 須田勝子(斐川)
 岸野サダ子(斐川)
 山根キミエ(平田)
 岩本泰彦(益田)
 中村節子(益田)
 佐藤武三郎(松江)
 平野愛子(松江)
 日高昭寿(瑞穂)
 横原徳子(境港東)
 菱川和美(智頭)
 福田義典(津ノ井)
 森田富二(東伯)
 浜上義人(東伯)
 田村一郎(鳥取)
 細谷登美恵(鳥取中)
 西村百合子(米子)
 岡 喜久子(江田島能美)
 前田清美(江田島能美)
 吉井綾子(広島)
 佐々木みどり(広島)
 島本貴久乃(広島安芸)
 川村淳子(広島玉実)
 岡本義明(広島玉実)
 樋野村 正(広島中)
 竹本完子(広島東)
 井上成子(広島南)
 上田文恵(備北)
 中島光代(宮島)
 辰井靖子(宮島)
 植田 勇(真庭)
 中尾治夫(山口)
 白石和徳(伊予道後)
 河本敬子(松山)
 内藤朋子(関西)
 北村八重子(関西)
- (総会資料名簿順)

猪麻呂の物語と月の輪神事

安来節が育った自由闊達な風土

並河健藏

遙かに遠い昔の安来の町の様子、千三百年も逆上る奈良朝時代に編纂された出雲国風土記に記されている。

地名・安来の由来

この風土記に安来という地名の由来が述べられている。その昔、須佐之男命が天の果てまで国巡りをされて、この地に来られた折に「私の心は安らかになつた」と仰せられたという。このことから、この地を安来という、といわれている。

毘売崎の伝承

続いて毘売崎の伝承がある。それによると安来の町の北の海岸に毘売崎(現在の毘売塚)で、このあたりは海であったという所があった。天武天皇の御代、西暦六七四年の七月十三日のこと、町の長である語臣猪麻呂の娘が、この崎の海岸を散歩していた突然、鰐鮫に襲われて亡くなった。父の猪麻呂は、大変憤って、天を仰いで泣き叫び、伏しては悶え、歩いてはむせび泣き、座りこんでは嘆き悲しみ、夜となく昼となく悩み苦しみ続けた。

月の輪神事

ところで現代の安来の町の盃蘭盆の夜に繰り上げられる月の輪神事は、この猪麻呂の物語に由来するもので、いわば鎮魂の祭である。

この夏祭は、町の若者や子供、それに親たちも参加して「エンヤ、エンヤ、デゴデツトーヤ」と勇ましく声を張り上げて山車を曳き、町を練り歩く。先頭は威風堂々と鉦を立てた新町、覆いかぶさるような御幣を押し立てた西御の大手場、そして三日月型の行灯を押し載く八幡町。これらの町内から繰り出す四つの

取り囲んで、徐ろに岸に連れ寄って来た。そこで猪麻呂は鉦を振り上げて、囲まれて一匹の大きな鰐鮫を刺し殺して捕えた。すると百余の鰐鮫は囲みを解いて、いざこともなく散っていった。猪麻呂がその鰐鮫を斬り裂いたところ、娘の脛の一片が出てきた。猪麻呂は憤りのあまり、鰐鮫をさらに斬り裂き、串刺しにして路傍に立てた。というのである。

町に繰り出す山車が所々に留って囃すひとこまは勇壮で味わいがある。気力の漲る若者の緩急つけた琴の響き、落ちていた壮年の掛け声と間髪を入れない太鼓の音、スローモーションのようである。決める熟年の撥擲き。それを引き立てる子供たちの涼やかな笛の音、その合間に皆の掛け声が夜の町にどよもす。

千三百年も昔の出雲国風土記に記されている物語を今に伝える一大行事は、古人に寄せる敬愛の念と自由闊達な安来の町の風土をよく表しているといつてよい。

銭太鼓が出雲地方安来節に入った様子等々



絃 名人
二代目 安達順吉

て廻られたのが初めてで、とても珍しくてそれ以来面白い芸とされて現在の安来節にはなくてはならない芸として広まった様に思われる。

昭和三十一年

現天皇が皇太子様の折に隠岐の島へ行幸になられた際、安来節の出演に同行して、御前出演の終わりに美智子妃様が銭太鼓を初めて御覧になられ、「面白い芸ですね」と手に持たれて色々とお話をされた事もありました。

昔話を少々

保存会発祥以来、安来節等が写真に撮られました。

びの申立てが受入れられ、すぐに絃と鼓のかまえ方や姿勢等が写真に撮られました。(当時写真の鼓は初代 砂川名人 現在は原文男氏) それ以来毎年発刊される安来節のしおりに掲載され幸せに思っている次第です。

指導部の皆さんも最近厳しく礼儀作法の方もなされている様子で何よりと願っているところです。

以前には皇室の方々の前での出演にも安来節の礼儀作法を御覧頂き、お褒めのお言葉を頂いた事もあります。益々の発展を祈りつつ



私と安来節



絃 名人
野坂 亮 利

三味線の音がする方に足が向く。今日は消防団の出初式夜の直宴。塀の外で聞き入る。兄の結婚式に兎角よしえさんと二人で来られ「お前、教えてやるから来んかや」師匠の一言、昭和二十四年正月師匠の門を叩く。

皆さんは皆上手で小生、なかなかついていけない有様「お前の様な下手クソはやめてしまえ」との事、「何クソ」と雨さえ降らなければ毎晩肩にかけ弾き歩く事三キロ余り、お陰様で愛のムチとなり

ました。三級で青班に出演して見事優勝、当時は白班(三、二、一級)と青班(初段、准師範)と赤班(師範)の三部門しかありませんでした。昭和二十六年に出場したNHKのど自慢全国大会に亡人山本晴夫氏と出場し見事日本一となり、帰ると同時に師範にして頂きました。

師匠に連れて出て貰って馬の子の唯歩き三年、その間亡人平井範義氏と松江 徹さん(当時は広瀬町山佐)宅に三日間泊り込み色々アドバイスを受けました。二十七、二十八、二十九年と三年連続優勝、三十年に大師範、相撲も出稽古しないと横綱になれないと言われる。まったくその通りだと思いま

す。二十八年八月一日より十数日間、二代目出雲愛之助一行の伴奏に師匠の代役で行つて来いと事、嬉しさと恐ろしさが交差しました。紋付袴が汗で塩を吹き、着れなくなりました。一度でいいから天下の愛之助の伴奏がしてみたいので、何事も苦になりませんでした。これこそ戦陣の谷底でした。

帰る二日前にあそこがここがと注意して頂いた時になぜもっと早く言ってくれなかつたのか、と言ったら未だ言うまでになつていなかったとの返事。プロの世界の厳しさをしみじみと味わう事が出来ました。

へ磨けど磨けど
地が鉄なれば
ともすりや
地金の錆が出る

安来節の道に入り三十年が経ちました。唄から始め絃、鼓、銭太鼓と勉強させていただき、現在は指導部員という大役を勤めさせていた、だいております。



絃 大師範
原 淳 文

西も東もわからない頃、亡き小川幸雄准名人、藤原靖行先生そしていろいろな先輩仲間と一緒に勉強させていただき、今の私があります。見ず知らずの人が安来節という一つの民謡の中で良き仲間となり、友人となり、本当に感謝しております。

優勝大会師範の部・絃で二回の優勝、団体の部優勝、幾度となく入賞させていただき、これも唄、絃、鼓のチームワークの中での事でした。

今後は安来節のこれからの姿、そして先人の先生方の大切な遺産を大事にし、民謡安来節の発展の為に微力ながら保存会の皆様方と共に安来節の道を歩んで行きたいと思っております。

皆様方の中には芸を磨き極めたい方や趣味で楽しみたい方、いろいろなか方がいると思います。お互いが大人の中で、お互いの心を思いやり、すばらしい安来節保存会を造りあげたいかがでしょうか。私も他の民謡、洋楽などもっともっと勉強し、一つずつ階段を歩いて行こうと思っております。皆様ももっと楽しんで民謡安来節を勉強しましょう。

安来節全国優勝大会

記録ビデオのご注文は!!

1991年~2006年の毎年3日間の競演

高品質な映像観
迫力の音質

- あの興奮をもう一度...! 毎年8月に行われる安来節全国優勝大会の記録ビデオです。あなたの晴れ舞台、映っています。
- 唄や踊りの手本に最適です。
- 銭太鼓デモンストラーションバージョンもあります。

各¥5,500 (送料込み) 放送用カメラで撮影
踊り編・銭太鼓編・各級ごとにご注文下さい。

ご注文お問い合わせ

中四国映像製作社連盟加盟

ヴィエルシー株式会社



〒690-0012松江市古志原2-9-60
TEL (0852) 27-7700
FAX (0852) 26-8132
E-mail vlcn@viola.ocn.ne.jp

大小鼓製造卸販売



杉本 鼓 店

住 所：島根県松江市馬潟町360-13
電話・FAX：0852-37-2033
E-mail：ks36013@web-sanin.co.jp

※通信販売も致しますので、お気軽にお電話ください。修理、下取りもご相談ください。

会員の声コーナー

十周年盛会裏に終る

平成十八年十一月四日東京都江東区亀戸文化センターホールに於いて、首都圏から駆け付けた大勢の支部会員・友人知人の参加で盛会裏に終る事が出来た。当日は安来節の唄、踊りを不十分ながら自前で伴奏出来るようになり、反省しきりの中にも貴重な体験を積み重ねて来た。

安来節の合い間に、貝殻節・最上川舟唄・南部牛追いなどの各地民謡、津軽じょんがら節・関の五本松の手踊、大道芸の玉すだれ、九十



東京支部長 棚橋 保

四才の尾上武夫さんのハルモニカ独奏、ミュージカル・ソー(のこぎり演奏)、剣舞・仕舞・詩吟・演歌舞踊と多彩に披露され喜ばれた。

銭太鼓は安来節(素唄・宇余り)・童謡・歌謡曲各地民謡と華やかに会場を盛り上げた。合せて岡山県倉敷市から十二名の友情出演があり「瀬戸大橋音頭」などのご当地ソングの銭太鼓に盛大な拍手が送られていた。

特別ゲストとして江戸伝統芸かっぽれの櫻川梅寿寿社中には獅子舞でお祝いをしていただいた。そして出雲正之助師の踊の模範演技の後、安来節素唄と「瀬戸の唐橋」・「出雲追分の熱唱」と続き、会場の参加者全員を対象にした安来節唄の指導があり、舞台上狭しの身振り手振りに大爆笑の中にも皆んな引き込まれて口ず



関東支部長 若岑 礼

氷川きよしさんと桂米助さんの安来節体験記

た。やがて体験が始まり健康増進のためにどじょうすくい踊りを体験しようということになりました。

若岑佳声師がまず歩き方、ザルの持ち方、腰の落とし方、表情の作り方、最後に全体のストーリーを説明して約半日がかりで体験を終えて二人共大喜びで帰られました。

これは全国放映でしたが、実際にテレビではほんのわずかしが放映されませんでした。しかしこの放映後は氷川さんのファンや米助さんのファンからも大変な反響があり、関東各地からぜひ安来節の体験コーナーをしてくださいという依頼が殺到し、お陰で平成十九

浅草に関東支部の安来節の稽古場があるのですが、テレビ放映で出雲路というテーマで取材させてくれという依頼があり、今年の四月二十四日の午後から撮影に来るので、その時に安来節の体験コーナーをやろうということになりました。私共は局のアナウンサーが何名か来て体験をするのかと思っておりましたが、当日には、あの全国的に有名な氷川きよしさんと桂米助さんが突然入って来られたので、私達は本当にビックリ致しまし

さみ大好評で語り草となりました。

終りになりましたが、島田二郎会長に祝辞をいただきました。そして銭太鼓、竹内流家元竹内松子師匠には祝電をいただきました。衷心より感謝申し上げます。



選定歌詞の地名を訪ねて



江田島能美支部 久保本富子 中本幸子 福永真千子

安来節を習い始めて、もう随分経ちました。優勝大会や師範昇格審査、師範研修会など島根県に行く機会が多々ありますが、安来節の選定歌詞にある地名にはつい最近まで、ほとんど行ったことはありませんでした。

二年位前から、安来に行く度に一泊延ばして、地名巡りをしてみようということになり、まず車で安来に入ってすぐに目にとまるのが十神山、一度は登ってみたいと思っていました。山頂までの遊歩道はきれいに整備されていて、森林浴をしながら楽しく登ることができました。そして下って一周、海が間近でここを昔は鉄を積んだ船が帆を巻いて、ヤサホヤサホと

のぼっていったのでしよう。そして社日桜の社日公園、あいにく桜には少し早かったのですが、なるほどここがそうなのかと実感し、松江名所の嫁ヶ島と千鳥お城の松江城は堀川めぐりの船が、情緒豊かに行き交って、のどかな一刻を過ごせました。

東は伯耆大山の裾野の広さに感動し、西は出雲大社の大きな大きな大しめ縄に驚嘆し、大国様の偉大さを感じました。出雲札所の清水寺は秋の紅葉真っ盛りの頃に訪れました。深紅のみみじの美しさ、精進料理の美味しさに幸せを感じた私達でした。これからも色々な所を訪ね歩き、安来節にも更に精進してまいりたいと思います。

ビックリしたこと

平成十八年十月二十二日の出雲路での師範研修会は、安来節の奥深さ、難しさ、面白さを増々思い知らされるとても有意義なものだった。

ボで唄っているか解って唄っていますか?と問われ、ほとんどが「?」首をかきあげつつも皆真剣に、真摯に指導部の先生の助言に耳をかたむけていた。

その中である人が「...のところ...とすると...と良くなりますよ」との指導部長さんの助言に、間髪を入れず「こう教わっていますから」と切り返す場面があった。これにはビックリした。これでは研修会の意味がない。研修会に於いて指導して下さる保存会の選ばれた偉い先生に対し、自分の師匠を上に置いたあの傲慢な態度もまた、師匠

の指導によるものなのだろうか。あんな事、東京では通用しない。安来節のしおりの中のどこにも書かれてはいない。保存会指導部の選ばれた先生方の上に、もし誰かを置くとしたならば組織運営上、将来相当支障をきたしてしまうのではないかと心配になって来る。百年の歴史が泣く。こんな風に感じたのは私だけなのだろうか? しかしこれは他人事ではない。私も充分に心して精進しなければ、安来節に申し訳ない。願わくば彼女に、講師の先生から「研修会とはどういうものか解りますか?」と問うてほしかった。



大江戸支部 松山 紘子

この研修会に於いて指導して下さる保存会の選ばれた偉い先生に対し、自分の師匠を上に置いたあの傲慢な態度もまた、師匠

正調安来節銭太鼓教室

- ◆ 第1・第3水曜日 1時～
 - ◆ 月謝・月2回けいこ 5,000円
 - ◆ 入会金 3,000円
 - ◆ 安来節保存会関東支部 浅草道場 (浅草雷門くぐり左折徒歩30秒)
- 〒111-0032 東京都台東区浅草1丁目18-3
TEL・FAX 03-3847-0215



正調安来節銭太鼓 師範 阿部洋二

正調安来節銭太鼓・製作・販売
3,500円(送料別) Tel・fax 048-296-1328

関東一円に出張けいこもいたします。

初心者大歓迎

唄 絃 鼓 どじょうすくい 会員募集

安来節保存会 岡山支部

岡山市西山内 116
TEL 086-299-0915

ひびけ歌声世界の空へ

支部情報



広島中支部長
村上海子

広島中支部は、平成七年に広島支部より分離して出来た本所に新しい支部です。支部設立に必要な会員数、二十名を苦勞して集め、やっと出来ました。これも安来節保存会の諸先生方のお力添えと、今は亡き中津幸子先生の一生懸命な努力のおかげで今の広島中支部があります。

設立当時、師範は中津先生一人で六十才から七十才の准師範の人が四、五人であとは新人同様といった状態での発足でした。私自身は、島根県益田

市で生まれ育ち、安来節は子供の頃から聞きなれた民謡でした。どじょうすくい踊りもお腹を抱えて大笑いして見た事を思い出します。他界した母が安来節を楽しそうに歌っていた姿を思い出して、よし私も島根の人間だ、難しいだろうが故郷の安来節を歌えなくってどうするとう気持ちで一念発起して公民館に行き、そこで師匠の中津先生に出会い御指導して頂きました。平成五年七月の事です。

先生のご指導のもと、順調に進級して全国大会への出場、山陽地区大会の参加など徐々に楽しい安来節になり、和氣藹藹の広島中支部の一員になりました。公民館活動、広島のフラワーフェスティバルの出場、施設の慰問などで安来節をアピールしてきましたが、今でも会員数は二十名たらずの

小さな支部です。今年の三月から、若輩の私が支部長に選任されました。老若男女が楽しめる活気あり、魅力ありの支部にしていきたいと思えます。

昨年までいろいろな部門での師範資格を取得した人が増えて、今年も全国大会で団体戦に初めて挑戦しました。やっとなりて挑戦に勝つ人数がそろったなど感慨深いものがありました。小さな支部ならではの感激です。これからも、会員一同、心を一つにして、安来節の普及発展のために努力していきたいと思えます。

安来節保存会の益々の御発展を心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願いたします。



本部道場長
西村利美

毎日、観光バスが足立美術館や安来節演芸館に行き交う車道の近くに自宅があります。

本部道場が明治四十四年に設立してから現在会員数が四百二十二名です。道場長を任命されてから、早くも九年目になろうとしています。

毎年行事の多い本部道場ですが、それをこなすのも会員の皆さんの協力あつての事です。

行事の一環として八月二十七日に老人ホーム鴨来荘を慰問して山陰の民謡の唄や踊り、銭太鼓を披露して帰る折におぼつかない足取りで玄関まで見送り、手を振るお年寄りもあり、会員の中にも感動して涙を拭いている方もいました。

毎年十一月に安来市では文化祭が開催され、その一環として本部道場は「みんなで唄う安来節」で素人安来節コンクールと素人どじょうすくいコンクールの催しに沢山の

応募者があり、特別参加として安来市立赤江小学校四年生の合唱安来節と安来市立広瀬小学校銭太鼓クラブの皆さんの披露もあり、また各地区公民館活動の発表と本部道場会員の皆さんの山陰民謡や銭太鼓、どじょうすくい盛大に終わりました。

安来駅から車で約十五分の所に安来節演芸館が今年一月二十日オープンし、毎日四回公演で入場者が満席の時間帯があるそうです。保存会会員の皆さん、安来節演芸館にお越し下さい。



山口西京支部長
徳本良子

伝統ある宇部支部より名称を変更して山口西京支部が発足して四年になります。

室町時代にザビエルが日本で初めてキリスト教を伝導させた西国一の大名と云われた大内氏の城下町として栄え、風光明媚な西の京都と呼ばれます。

伝説ある宇部支部より名称を変更して山口西京支部が発足して四年になります。室町時代にザビエルが日本で初めてキリスト教を伝導させた西国一の大名と云われた大内氏の城下町として栄え、風光明媚な西の京都と呼ばれます。

現在の活動の内容は、支部研修会・地区公民館の文化活動・各種事業団体の催し・老人ホーム等のボランティア慰問を行っています。毎年敬老の日前後は多忙を極めます。少しでも多くの人に安来節の魅力を広げるとともに、今後も地の利を生かして、安来節保存会の会員を一人でも多く増やすことを目指しています。



境港東支部長
柴田洋司

日本有数の漁港、境港に住んでいた「さん子」という芸妓が北前船の船乗りにより、港々に伝えられていく唄を自分なりの節回しで「さん子節」という唄を作り出した。

これにメリハリをつけたものが、安来節の元唄といわれている。歴史のある土地ですが、米子支部・境港支部へと変遷があり、昭和五十七年に二代目安達順吉先生のお力添えをいただき、七十名の会員で正式に境港東支部として発足しました。

先輩諸先生方より引き継いだ支部も色々時代の変遷により、会員数の増減もありましたが現在会員数四十六名、五教室での練習のほか会員の技能向上を目指し、指導部の先生をお迎えして御指導いただいておりますが、本年より充分な時間とれる日曜日に設定し、充実した講習会を予定しております。

支部発表会は、毎年シンフォニーガーデンにて諸先生方をお迎えして会員の練習の成果を披露し、親睦を深め、地域の老人会他諸団体を御招待し、皆様と楽しい一日を過ごし、安来節の普及につとめております。

今後は新会員獲得ならびに普及発展に会員一同精一杯頑張っていきたいと思えます。

安来節保存会東京支部・10周年特別企画!!

国際親善交流 ベトナム・ホーチミン市 & カンボジア・シェムリアップ

～国際親善交流へのお誘い～ 安来節保存会の皆様、今般、創立10周年を期して国際親善交流の旅を企画致しました。これは、初めての東南アジアの人々との交流です。特にカンボジアのシェムリアップには「魚探りの踊り」があり、その踊りが「どじょう揃い踊り」に似ているということで、その踊りとの交流を数年前から検討していましたが、それが、この度実現する運びとなりました。東南アジアとはモンスーン地帯として稲作文化を通じ、悠久の歴史を共有しております。そうした思いを込めて有意義な交流にしたいと思っておりますので、是非大勢の参加を心よりお願い致します。なお、世界遺産のアンコールワット巡りもありますので、観光だけの参加も歓迎です。関心のある方資料をお送りします。下記迄ご連絡下さい。

平成18年11月10日 支部長 棚橋 保

安来節保存会 東京支部

東京都新宿区西新宿7-7-7 ハイライフ西新宿316号
TEL 03・3361・0488 FAX 03・3361・4293

安来節演芸館からの お知らせ

平成十九年一月四日より安来節演芸館にて、安来節保存会会員証を提示して頂いた方に限り入場料が半額となりますので、ぜひご来場ください。

事務局からの お知らせ

安来節のしおり(平成十八年度版)に誤りがございました。追加、訂正してお詫びいたします。

支部設立

〈東海支部〉
支部長 桂 俊弘

支部廃止

〈島根半島支部〉

【追加】	P115	◆本部道場	絃	師範	加藤 満
	P117	◆本部道場	鼓	二段	加藤 満
	P121	◆加茂支部	唄	初段	加藤 満
			銭太鼓	三級	陶山茂子
【訂正】	P118	◆本部道場	絃	三級	新田功二
			絃	二級	新田功二